資 料C

2023 年 3 月 31 日

障がい者の海浜利用のサポートガイドライン（案）

公益財団法人日本ライフセービング協会

目　次

1. はじめに 1

2. ライフセーバーによる活動実態 2

3. ライフセーバーによる活動例 4

4. 誰でも海を楽しめる環境創出事業での実績 7

5. 実施条件 12

6. 実施メニュー 14

7. 安全対策 15

8. おわりに 17

1. はじめに

内閣府「令和２年版　障害者白書」によると，身体障害，知的障害，精神障害の３区分について，各区分における障害者数の概数は，身体障害者（身体障害児を含む．以下同じ．）436 万人，知的障害者（知的障害児を含む．以下同じ．）109 万 4 千人，精神障害者 419 万 3 千人となっています.

これを人口千人当たりの人数でみると，身体障害者は 34 人，知的障害者は 9 人，精神障害者は 33 人となります. 複数の障害を併せ持つ者もいるため, 単純な合計にはならないものの, 国民のおよそ 7.6%が何らかの障害を有していることになります.

つまり，日本国民の 13 人に 1 人は何らかの障がいを持った方がいるのです.

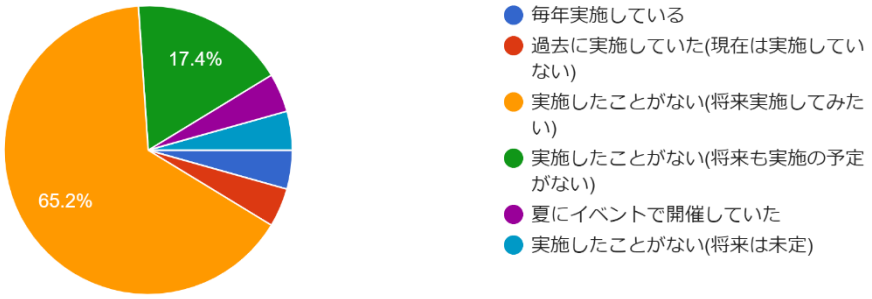
一方，わが国では，約 200 ヶ所の主要な海水浴場等で，ライフセーバーが監視救助活動をしています. 本ガイドラインは，ライフセーバーの介助により，障がいをもった方を対象に，誰でも安心安全に海を楽しめる環境をつくるために作成しました.

海というフィールドの特性を活かし，既存のライフセービングカリキュラムと連携して，障がいの課題を取り除き，障がいの有無に関わらず，安全に海を楽しめる環境づくりが必要です.

2. ライフセーバーによる活動実態

2021 年に実施したアンケート調査結果（回答 n=23）を以下に示す.

Q1　あなたの活動する所属クラブでは，あなたの活動する所属クラブでは，要介護者（障がい者）に対してのサポート事業を展開していますか？



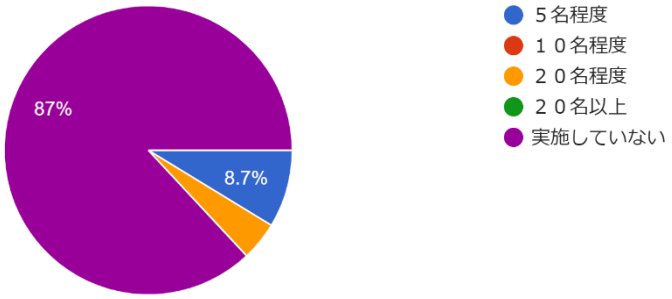
Q2　あなたの活動する要介護者（障がい者）に対してのサポート事業は，具体的にどのような障がいを持った方が対象ですか？

1. 実施していない（20件回答）
2. 車椅子の方が対象
3. 四肢障がい、知的障がい
4. 自閉症、ダウン症などの障がい者および車いすでの生活を行っている障がい者

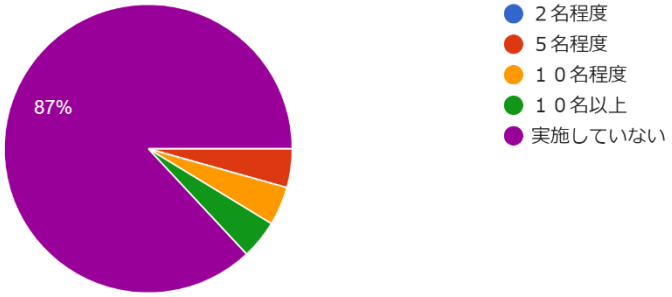
Q3　あなたの活動する要介護者（障がい者）に対してのサポート事業は，具体的にどのような内容ですか？

1. 実施していない（20件回答）
2. NPO車椅子の会サイレントフットの方との共同企画で、車椅子の方との車椅子の方のサポート方法を勉強したり、ランディーズの注意点等を勉強したりしていた
3. Water Program(トライアスロン、OWSなど）、海を利用した個別練習
4. 障がいを持った子とその家族に対して、海水浴やビーチヨガなどを提供。ビーチコーミングで集めた流木や貝などでの工作。

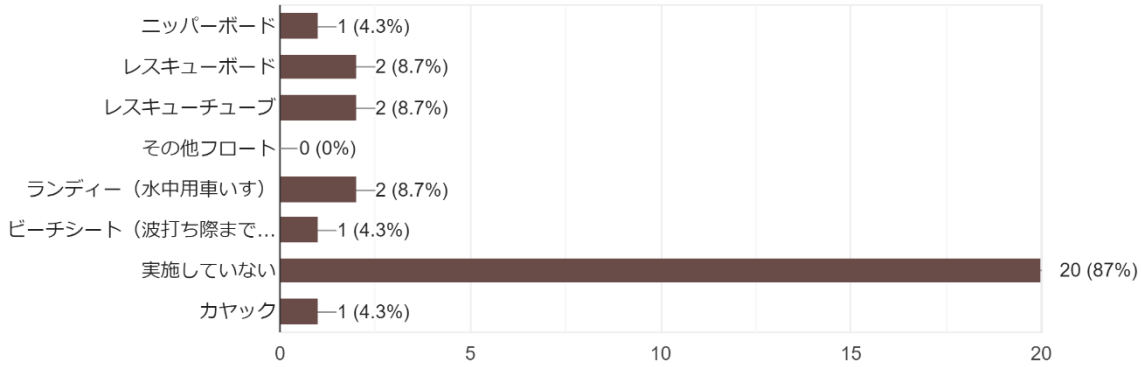
Q4　あなたの活動する要介護者（障がい者）に対してのサポート事業は，一度の事業で何名くらい参加者がいますか？



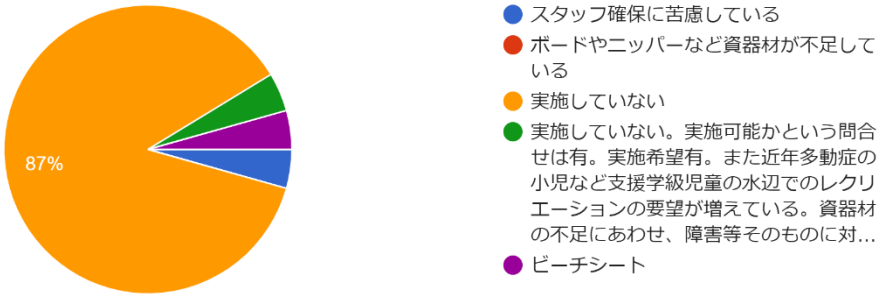
Q5　あなたの活動する要介護者（障がい者）に対してのサポート事業は，一度の事業で何名くらい介助スタッフがいますか？



Q6　あなたの活動する要介護者（障がい者）に対してのサポート事業では，どのような器材を使用していますか？



Q7　あなたの活動する要介護者（障がい者）に対してのサポート事業では，何が不足していますか？



3. ライフセーバーによる活動例

JLA 調べ（2022 年）によれば，全国 146 クラブ（2022 年）のライフセービングクラブのうち，要介助に対して海辺の利用サポートを実施しているのは 7 クラブである（図 3.1）．

図 3.1 要介助に対して海辺の利用サポートを実施しているクラブ

表 3.1 若狭和田海岸，若狭和田ライフセービングクラブ①

目的	・自然の中で身体をたくさん動かし，心身共にリラックスする. ・海という環境のなかで感受性を育み，表情豊かに社会参加できるようにうながす. ・保護者間の交流をはかり，日々の生活での不安や疑問，工夫について情報交換できる場の提供.
日時	2015 年 9 月 5 日（土）13:00～15:00（12:00 頃 受付開始）
場所	若狭和田海岸
参加人数	10 家族（14 名）
サポートメンバー	ボランティア 17 名
内容	ビーチクリーン（浜拾い） 入水（体操，ニッパーボード，レスキューSUP，レスキューボード） ビーチコーミング
準備資機材等	保険関係書類，参加者名簿，ボランティア名簿，筆記用具，ニッパーボード，レスキューSUP，レスキューボード，ゴミ袋，機材一式，ライフジャケット，パトキャップ，机，イス，袋，貝殻，シーグラス，マスキングテープ
課題	・開催時期の調整（他イベントとの関係） ・ライフセーバー本部の利用時の注意点や導線を明確にする（シャワー・トイレの改修） ・使用する器具の説明（特にボランティアスタッフに向けてのクリニック等） ・ボランティアスタッフの人員増加

表 3.2 若狭和田海岸，若狭和田ライフセービングクラブ②

目的	・自然の中で身体をたくさん動かし，心身共にリラックスする. ・海という環境のなかで，感受性を育み，表情豊かに社会参加できるように促す. ・保護者間の交流をはかり，日々の生活での不安や疑問，工夫について情報交換できる場の提供.
日時	2016 年 7 月 2 日（土）13:00～16:00(受付 12:00,解散 15:30)
場所	若狭和田海岸
参加人数	スマイルキッズ（17 家族：24 名）
サポートメンバー	ボランティア（33 名：ライフセーバー15 名含）
内容	ビーチクリーン（浜拾い） 入水（体操，ニッパーボード，レスキューSUP，レスキューボード） ビーチコーミング
準備資機材等	保険関係書類，参加者名簿，ボランティア名簿，筆記用具，ニッパーボード，レスキューSUP，レスキューボード，水陸両用車いす（HIPPOCAMPE），ゴミ袋，機材一式，ライフジャケット，パトキャップ，机，イス，袋，貝殻，シーグラス，マスキングテープ
課題	・開催時期の調整（回数，水温，テスト期間） ・入水の時間，資機材の使用 ・施設利用（バリアフリー，更衣室）

表 3.3 須磨海水浴場・アジュール舞子海水浴場，神戸ライフセービングクラブ

目的	神戸ライフセービングクラブは，NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクトと協力し，須磨海水浴場とアジュール舞子海水浴場において，ビーチマットと水陸両用車イスを用いたユニバーサルビーチ化（スイミングサポート含む）を推進している．
日時	夏季
場所	須磨海水浴場・アジュール舞子海水浴場
参加人数	－
サポートメンバー	ライフセーバー
内容	水陸両用車イスを用いたスイミングサポート． 2018 年（2 日間で 10 名利用），2019 年に実施．新型コロナウイルスの影響により 2020 年，2021 年は海水浴場が開設されなかったためビーチマット等の設置は行っていない．
準備資機材等	ビーチマット，水陸両用車イス（ヒッポキャンプ）
課題等	・機材不足 ・人員確保 ・障がい者に対する知識（緊急時の対応含む），技術の不足．

表 3.4 片瀬西浜海岸，西浜サーフライフセービングクラブ

目的	－
日時	夏季
場所	片瀬西浜海岸
参加人数	－
サポートメンバー	ライフセーバー
内容	体操，ビーチフラッグス，ビーチクリーン
準備資機材等	ビーチフラッグ，レスキューボード，水陸両用車イス
課題等	西浜 SLSC には特別支援学校の教員が多いので，人員や器材は問題ない．参加者が中々集まらないのが課題．ホームページ，Facebook，前回の参加者の口コミ，チラシを作って放課後等デイサービスに配る，ジュニアの保護者のクチコミなどで参加者を募っている．

4. 誰でも海を楽しめる環境創出事業での実績

誰でも海を楽しめる環境創出事業では，2021 年に 1 会場，2022 年に全国 4 会場にて要介助の海辺の利用サポートを行った（図 4.1）．各活動報告を表 4.1～4.5 及び，図 4.2～4.6 に示す．

図 4.1　2021 年と 2022 年の誰でも海を楽しめる環境創出事業で実施した 5 会場

表 4.1 和田長浜海水浴場，日本ライフセービング協会

目的	海という環境のなかで，感受性を育み，表情豊かに社会参加できるように促す.
日時	2021 年 8 月 21 日 11：00 から 13：00
場所	和田長浜海水浴場
参加人数	7 人の障がい児，5 人の引率者 行政で支援，療育が必要と判断された受給者証をもった子達（障害を持つ子，障害名を持たない子）.
サポートメンバー	ライフセーバー（4 名）
内容	海遊び（ニッパーボード），海洋生物観察
準備資機材等	ニッパーボード，テント
課題等	はじめは水に触ることも怖がる子供や，どんどん入水する子供など，水に向き合う姿勢に大きな差があったために，子供たち一人一人にあった水慣れの接し方は目線を合わせて工夫した. 水辺はつまらない場所と感じることの無いよう参加者一人一人の反応に合わせて対応することに注意した.

図 4.2　2021 年の和田長浜海水浴場での活動の様子

表 4.2 須磨海水浴場・アジュール舞子海水浴場

目的	海という環境のなかで，感受性を育み，表情豊かに社会参加できるように促す.
日時	2022 年 8 月 6 日（土）
場所	アジュール舞子海水浴場
参加人数	障がいのある子どもたち 5 名が参加
サポートメンバー	ライフセーバー
内容	水陸両用車イスやライフジャケットを用いたスイミングサポート.
準備資機材等	ビーチマット，水陸両用車イス，ライフジャケット
参加者の感想	海の中で使える車イスの存在を初めて知り，普段できない貴重な体験ができた.
ライフセーバーへのヒアリング調査（検討推奨事項）	水陸両用車イスの利用には，介助者が 1 台につき 2～3 名必要であり，通常の監視救助業務活動との調整が必要である.

図 4.3　2022 年度の須磨海水浴場・アジュール舞子海水浴場での活動の様子

表 4.3 静岡県下田市 SEAPARK 柿崎

目的	海という環境のなかで，感受性を育み，表情豊かに社会参加できるように促す．
日時	2022 年 8 月 6 日(土)～8 月 14 日(日)
場所	静岡県下田市 SEAPARK 柿崎
参加人数	30 名が参加．障がいのある子どもたちと保護者
サポートメンバー	ライフセーバー
内容	海水浴場のサービスとして，バリアフリービーチ運営をライフセーバーが担った． 下肢の障害等で歩行が困難な海岸利用者の親水をサポート． 水陸両用車イス体験，ニッパーボード体験
準備資機材等	ライフジャケット，ニッパーボード，レスキューボード，水陸両用車イス
ライフセーバーへのヒアリング調査（検討推奨事項）	・ライフジャケットの配置数が充実していたので，子供たちの視認性向上が図れた． ・ライフジャケットの各サイズが充実していたので，体格にあった安全な浮力体を着装でき確実な安全管理ができた． ・水陸両用車イスの台数が少ないため，利用希望者が渋滞してしまうことがあった． ・ニッパーボードは，水になれるツールとして参加者に大人気で，水の上で楽しむ術を伝達できた．

図 4.4　2022 年度の静岡県下田市 SEAPARK 柿崎での活動の様子

表 4.4 山形県鶴岡市鼠ヶ関旧海水浴場

目的	海という環境のなかで，感受性を育み，表情豊かに社会参加できるように促す.
日時	2022 年 8 月 28 日（日）
場所	鼠ヶ関旧海水浴場
参加人数	134 名が参加．障がいのある子どもたちと保護者
サポートメンバー	ライフセーバー（5 名）
内容	水陸両用車イス体験，ニッパーボード，レスキューボード体験，ビックサップ体験，親子シーカヤック体験　その他.
準備資機材等	ニッパーボード，テント，ライフジャケット，水陸両用車イス
ライフセーバーへのヒアリング調査（検討推奨事項）	・ライフジャケットの数とサイズが充実していたので，多くの参加者が体格にあった安全な浮力体を着装でき，安全管理が確実なものとなった. ・参加者数に対して，水陸両用車イスの台数が少なかった. ・ニッパーボードは，水になれるツールとしてたいへん人気であった. ・レスキューボード，レスキューチューブなどの器材を用いて，ライフセービングに親しんでもらった.

図 4.5　2022 年度の山形県鶴岡市鼠ヶ関旧海水浴場での活動の様子

表 4.5　静岡県下田市白浜海岸

目的	海という環境のなかで，感受性を育み，表情豊かに社会参加できるように促す．
日時	2022 年 10 月 2 日（日）
場所	静岡県下田市白浜海岸
参加人数	パラ選手 4 名＋ライフセーバー及びスタッフ 13 名　合計 17 名
サポートメンバー	ライフセーバー（10 名）
内容	NSA パラサーフィン　エキシビジョンマッチ 2022 NSA サーフィン大会 パラサーフィンの部の 選手の救助・救護及び砂浜，海中移動のサポート． 水陸両用車イスを海から陸上への移動に使用
準備資機材等	水陸両用車イス
ライフセーバーへのヒアリング調査（検討推奨事項）	水陸両用車イスを活用し，パラ選手の陸上での移動をスムーズに行うなど，サーフィン大会を安全にサポートすることができた．

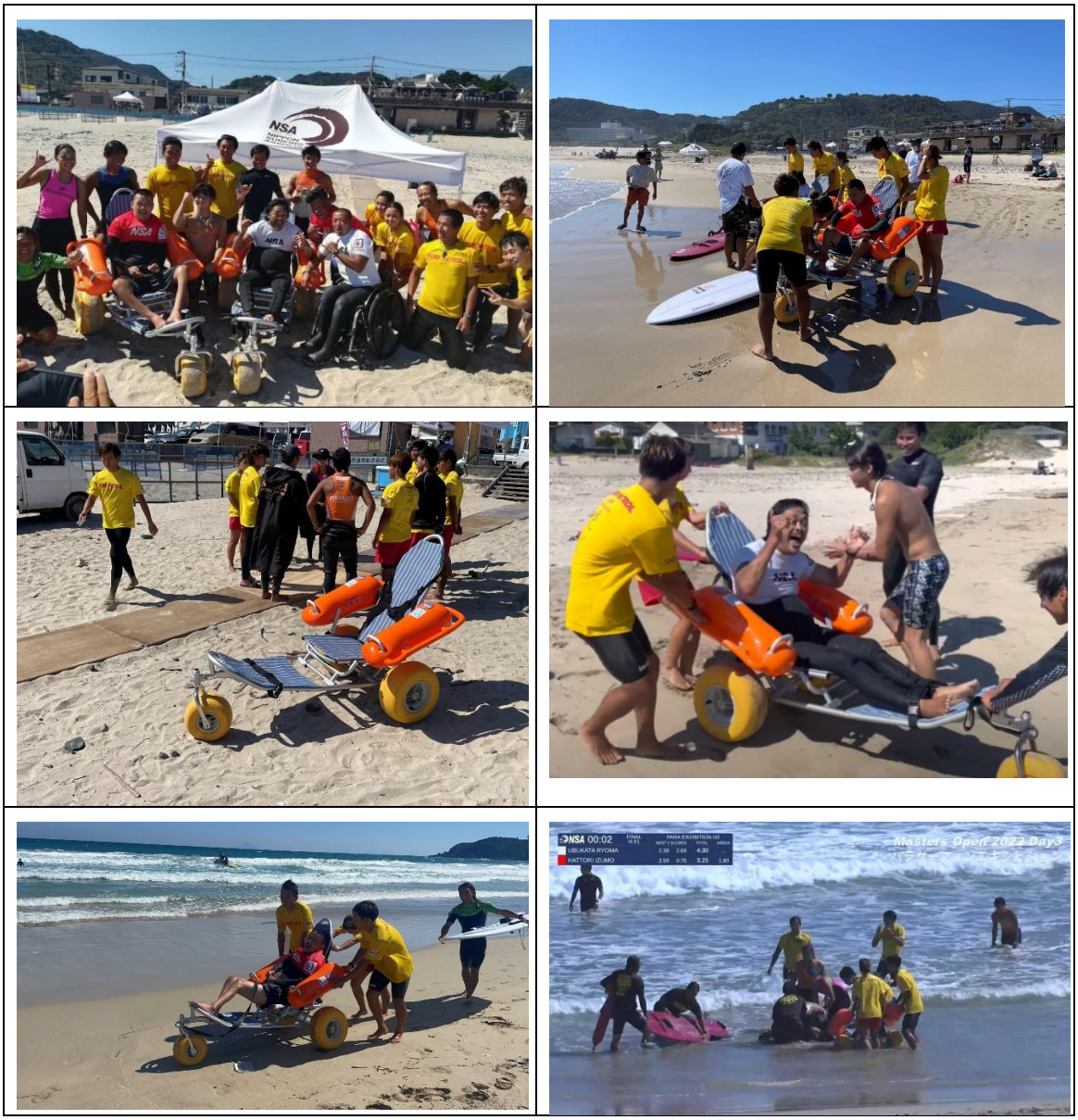


図 4.6　2022 年度の静岡県下田市白浜海岸での活動の様子

5. 実施条件

海辺の利用サポート等の活動を行う際の実施条件を以下に示す.

(1)実施場所

- 海水浴場遊泳区域
- 砂浜や安全の範囲内で磯場

(2)対象者

引率者のいる何らかのサポートが必要とされる方

(3)スタッフ

保護者含め引率者及びライフセーバーもスタッフ 1 名とカウントする．また，ご家族もしくは介護引率者へ十分なヒアリングのもとスタッフ人数確定する.

- 軽度の障がい者 4 名に，1 名のスタッフ.
- 重度の障がい者 1 名に，1 名のスタッフ.

(4)ライフセーバーの数と資格要件

認定ライフセーバー（サーフライフセーバー）資格以上

(5)海遊びに必要な資器材

- ニッパーボード（安全管理に配慮したうえで参加者全員分）
- 水陸両用車イス
- 視認性の高い色のライフジャケット（参加者全員分）

(6)安全管理に必要な資器材

- レスキューチューブ
- テント
- FA キット
- AED
- その他，引率者が必要と認めるもの

(7)気象海象

- 風速 8 m/s 以下，波の高さ 0.5 m 以下，視界 200 m 以上の条件下
- 強風，波浪，雷，津波に伴う注意報・警報が発令されていない場合
- 若しくは主催者側が安全に実施可能と判断した場合

6. 実施メニュー

各地での実施内容をふまえ，海辺の利用サポートの実施メニュー例を以下に示す.

(1)海洋生物の紹介

実施海域に生息する多種多様な海生物（ウニやヒトデなどの棘皮動物やカニやヤドカリなどの甲殻類など）の生態を紹介することで，受講者の好奇心を掻き立て，海という生命の宝庫を感じてもらう.

(2)ニッパーボードを活用した波乗り体験

陸上でニッパーボードの乗り方のコツとして，体重移動やパドリングテクニックを受講者に合わせた難易度で伝達し，入水後に波に合わせてライフセーバーが後方から推し進め，波という波調に合わせることで，自然と調和する楽しさを体験してもらう．さらに，波に乗った後に，体重移動を自分で体験し，コントロールできる喜びを体験してもらう.

(3)水陸両用車いすを活用した水慣れ体験

障害の程度によっては，限られたカリキュラムのみの体験となるが，波に揺られる体験も，自力歩行困難者にとっては貴重な体験となりえます．ライフセーバーがしっかりとサポートし，波の中で揺られ，波高に合わせて上下する楽しさを体験してもらう．また海水とはどんなものか浮力や味も可能であれば，安全の範囲内で体験してもらう.

(4)ビーチクリーンとビーチコーミング

受講者とともに海岸にある自然に帰らないごみを回収し，海岸が美化していく高揚や，プラスチックごみの問題を認識体験してもらう．また，ビーチコーミングと称し，回収したごみや自然物でアート作品を制作する楽しさから，海岸における遊びを伝えていく．同時に美化活動の大切さも伝えていく.

7. 安全対策

(1)地震

津波情報を確認し「津波警報」「津波注意報」が発令された場合は，プログラム・体験会を中断し，放送及びライフセーバーの誘導により関係者を丘側に避難させる．

(2)雷

雷雲が接近した場合には，周辺の状況に充分注意し，雷の発生が疑われる場合はプログラム・体験会を中断し，放送で落雷に対する注意を呼びかける．雷が発生した場合にはただちに全てのプログラム・体験会を中止し，参加者，スタッフ等へ避難を呼びかける．避難場所としては，「自動車，バス，列車，鉄筋コンクリート建築の内部」「本格的な木造建築の内部（普通の落雷に対して）」が望ましい．

テントやトタン屋根の仮小屋の中は，屋外と同様に雷の被害を受ける危険がある．

(3)溺水

参加者及び周辺海域の遊泳者で溺者を発見または通報を受けた場合は，最寄りの関係者は溺者の救助に努めると共に，ライフセーバーにより溺者に対し必要な応急処置を施す．応急手当ではすまない場合は救急車により医療機関へ搬送する．

(4)傷病

ライフセーバーを含むスタッフにより必要な応急処置を施す．応急手当ではすまない場合は救急車により医療機関へ搬送する．

緊急連絡先

1. 消防－ 119 番
2. 警察－ 110 番
3. 医療関係－ 最寄りの医療機関の電話番号をプログラム前に確認しておく

※実施会場に一番近い公的救助機関に直接電話するより，119 番もしくは 110 番など指令室に入電するほうが公的救助機関の現場到着は迅速になる．

(5)中断・中止判断基準

下記の基準によりプログラム・体験会の進行が困難と判断された場合，事業担当責任間で協議し，プログラム・体験会の中断または中止を判断する．

波高 2 m 以上
風速 8 m/s 以上 警報・注意報 強風，波浪，雷，津波
視界 200 m 以下

荒天が見込まれる時には，前日の夜までに気象情報を収集しておき，中止，開催場所の移動，内容の変更などの判断は，指導者により当日 7 時までに判断し，速やかに参加者へ連絡をする．

8. おわりに

ライフセーバーによる介助が必要な人への水辺の利用サポートにより，全国各地で誰もが水辺を利用できる環境をつくりだすことが可能と考えます.

日本国民の多くに障害を持った方がいます．この活動が全国で少しずつ波及し，誰もが水辺を楽しめる社会となり，また，サポートしたいと考える国民のきっかけになれたらと切望します.

海の生き物を覗き込む子供たちの顔，はじめて波にのった子供たちの笑顔はこんなにも素敵なものはないと感じました.

ライフセーバーの介助で，多様な子供たちの笑顔が生まれます．全国のライフセーバーのみなさん，多様な子供たちが安全に海を楽しめる環境を，是非みなさんの力で整えていきましょう.

2023 年 3 月 31 日

公益財団法人日本ライフセービング協会
救助救命本部パトロール・レスキュー委員会